

川上ダム通信 2010 10月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

オオサンショウウオの会@真庭大会

9月11日と12日の2日間、川上ダム建設所環境課の職員2名が、岡山県真庭市にある湯原ふれあいセンターで、全国からおよそ200名が集まって開催された第7回オオサンショウウオの会@真庭大会に参加しました。

真庭市は、上房郡北房町、真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村の5町4村が合併し、平成17年3月31日に発足しました。このうち、川上村、中和村、八束村、湯原町は、昭和2年にオオサンショウウオの生息地として国の天然記念物に指定されており、オオサンショウウオとゆかりの深い地域です。ちなみにオオサンショウウオは、昭和26年に種として国の天然記念物に指定され、翌年の昭和27年、国の特別天然記念物に指定されています。

真庭大会の初日は、総会が行われた後、真庭市でオオサンショウウオの生態を研究されている川崎医療福祉大学の梶田教授の講演や、全国各地から種々の報告が行われました。報告会では、オオサンショウウオに関する調査やワークショップの報告、オオサンショウウオと地元の関わりなどの興味深いものばかりでした。川上ダムからは「川上ダムのオオサンショウウオ保全に対する取組」と題して、これまでのオオサンショウウオ保全対策の紹介を行いました。

初日の夜には、オオサンショウウオの夜間観察会が、会場付近を流れる鉄山川で行われました。この夜間観察会では、4個体のオオサンショウウオを見つけ、観察を行いました。

2日目は、真庭市が運営するオオサンショウウオの資料館であるハンザキセンターを見学した後、真庭市内のオオサンショウウオの生息地などをめぐりました。地元の方々が講師となり、オオサンショウウオの生息状況の今と昔の違いなどを説明していただきました。

今後も継続してオオサンショウウオの会の活動に参加し、情報交換することで全国各地の取り組みを知るとともに、その情報を川上ダムにおけるオオサンショウウオの保全に生かしてまいります。

【環境課 鷲尾盛士】



会場となった湯原ふれあいセンター



オオサンショウウオ保全の取組を紹介

工事の現況

仮排水路トンネル工事等の進捗状況について

仮排水路トンネル工事のトンネル内部をコンクリートで覆う作業は9月初旬で完了しました。引き続き、**呑口部（仮排水路トンネルの入口）をコンクリートと鉄筋で作る作業を進めています。**

コンクリートを運ぶミキサー車が県道松阪青山線を通行しますが、引き続き**一般車両優先で工事を進めてまいります**ので、工事へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、昨年8月から開始した**右岸ダムサイト進入路工事は終盤**を迎え、この工事における**県道松阪青山線のダンプ等の通行は無事終了**しました。これまでの皆様のご理解・ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

仮排水路トンネル工事



仮排水トンネル工事



呑口部の作業状況

付替県道青美線トンネル工事の進捗状況について

付替県道青美線トンネル工事については、8月初旬よりトンネル上流側の山を削る作業に着手しております。

8月1日の県道青山美杉線(現道)沿いの斜面崩落に伴い、現在、当該区間が通行止めとなっておりますが、三重県施行の県道名張青山線改良工事が暫定供用を開始しました。このため、当該工事の車両等は、この暫定供用を開始した道路を通行（赤色点線）します。なお、今年の11月末までの**県道名張青山線(赤色点線)**の工事用車両の通行は少ない予定ですが、**一般車両優先で工事を進めてまいります**。引き続き工事へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。 【工事課 山田雅勝】



防災訓練と普通救命講習を実施

9月1日(水)の防災の日、川上ダム建設所では東海地震と東南海・南海地震が連動して最大震度7、マグニチュード8.7という大規模な地震が発生したと想定し、**防災訓練**を行いました。訓練では、初動態勢の確立、情報の収集・伝達訓練等の実地訓練を行い、地震発生時における防災業務を円滑に遂行できるよう、**職員の地震に関する防災意識・対応能力の向上を図ることを目的**として、実施しました。職員は刻々と状況が変化中、本番さながらの緊張感を持って取り組むことができました。

午後からは、伊賀市消防本部より3名の講師をお迎えし、**普通救命講習**を行いました。講習では、応急手当の方法や熱中症対策、また、人形を使用して人工呼吸や胸骨圧迫などにより心肺を蘇生する方法と、AED(自動体外式除細動器)を用いて心肺を蘇生する方法を学びました。これらは、実際に一人ずつ行うことにより、正しい心肺蘇生法を習得することができました。

【工務課 鶴牧美鈴】



防災本部の様子



救命講習会の様子

第10回 植物図鑑シリーズ 地元で見られる植物

今回は、**キク科植物**について紹介します。

日本では**約360種**確認されており、ヒマワリやコスモスなどの園芸・栽培用に外国から移入された種や、**タンポポ**や**アザミ**など馴染みの深い種もキク科の植物です。これからの時期は、野山を歩くと**日当たりの良い草地**や**湿地**、**山地の林下**など様々な場所で開花したキク科植物に出会うことができます。

10月は季節柄、ハイキングなど野山を散策するのに良い季節です。地元でちょっと身近な自然を満喫されてみてはいかがでしょうか。

【環境課 水野正明】



ヒヨドリバナ (開花時期: 8~10月)



リュウノウギク (開花時期: 9~11月)

第4回 伊賀市周辺の水辺の土木

水害の記憶と記録 ～水神碑～

木津川や名張川の堤防沿いを歩くと、あちらこちらに小さな石碑を見かけます。「水神」と刻まれたこの石碑には「安政」、「嘉永」、「文久」などの元号がみられ、江戸時代に建立されたものとわかります。「水神」は川の神様で、地域の人々からは“水神さん”と呼ばれ親しまれています。

建設省木津川上流工事事務所（現木津川河川事務所）発行の「木津川史」には、この地域を襲った水害の記録がまとめられています。木津川史にある水害が起きた年の元号と、水神碑に刻まれている元号が一致しており、**水害と水神碑との間に深い関係がある**ことがうかがえます。

生命、家屋、田畑を水害から守るための堤防は、江戸時代にも造られていましたが、大型機械を使って造成する現代の堤防と比べると、当時のものは全て人の手によって築かれた貧弱な堤防でした。このため、洪水で堤防が破れる度に村人が総出で修復・改築し、次の大雨に備えなければならず、当時の労苦は大変なものでした。

水神碑を辿ってみると、現在でも国道が冠水する場所、川が合流している場所など、水害が起りやすい場所に建立されています。**水神碑は自然の脅威に対する先人からのメッセージ**なのかもしれません。 【調査設計課 金山明広】



安政時代の建立をしのばせる



水神様の石碑

EVENT

比自岐コスモス祭り

コスモス畑でのコスモス摘みやいも堀、新鮮野菜をはじめとする地元特産品の販売など、多彩な催し物が用意されています。山あいの里を一面ピンクに染め上げるコスモス畑に囲まれて、秋の到来を感じてみてはいかがでしょうか。

○日時/10月10日(日)、10:00～15:00

○場所/比自岐小学校周辺

○問い合わせ/比自岐地区市民センター

Tel:0595-37-0029

第6回 ふれあいフェスタin青山

地元農産物の朝市をはじめ、木材製品の販売、地元地区の飲食物の出店、各種体験コーナーやアトラクションなどもあります！是非、ご家族そろってお出掛け下さい。

○日時/10月30日(土)、10:00～15:00

○場所/青山ハーモニーフォレスト

○問い合わせ/ふれあいフェスタ実行委員会

Tel:0595-52-3220

編集後記

「夏バテ」という言葉がありますが、残暑の続く今年は、「秋バテ」にも注意が必要とのことです。秋バテに負けないよう、しっかり秋の味覚を食して、体調管理に気をつけてまいりましょう。

青山地区のふれあいフェスタを紹介しておりますが、その他にも、10月は秋のイベントが満載です。是非とも足を運んで、伊賀の秋を体感していただければと思います。

【広報誌発行事務局】

編集長 及川 拓治（建設所長）
デスク 吉岡 直也（総務課長）
// 柳生 光彦（工務課長）
記者 堀 雅智（総務課）
加藤 晶久（第一用地課）
松高 遵（第二用地課）
森岡 浩然（調査設計課）



ISO14001: 2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。◇